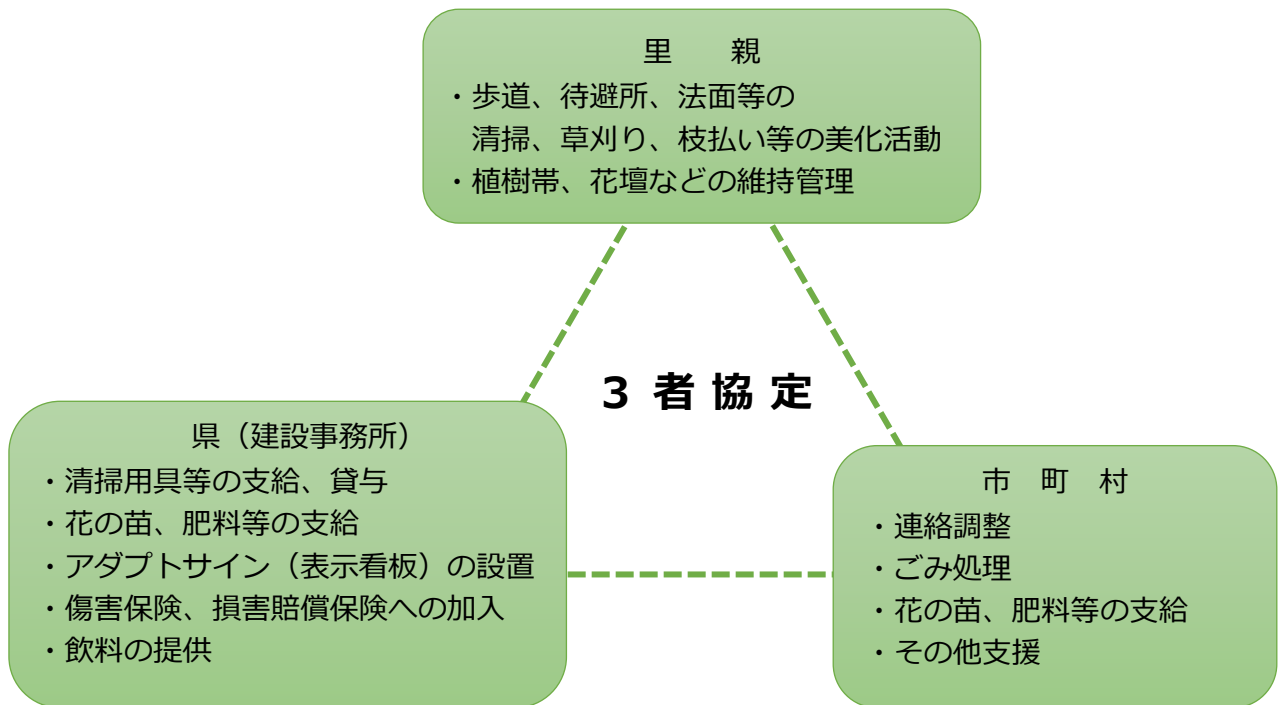


道路アダプトシステム

信州ふるさとの道ふれあい事業について

アダプトとは「養子縁組をする」という意味です。住民が道路などの公共スペースを、養子のように愛情をもって面倒を見る（清掃・美化）ことから命名されました。自治体と住民がお互いの役割分担について協定を結び、継続的に美化活動を進める制度です。



【事業内容】

長野県では、平成15年度から「信州ふるさとの道ふれあい事業」として、アダプトシステムを本格的に実施しています。

地域住民団体、個人、企業又は学校が道路の「里親」となり、里親・市町村・建設事務所による三者協定に基づいて、里親はボランティアで美化活動等を実施し、市町村・建設事務所は里親の活動を支援します。

【活動状況】

長野県では、339団体と協定を締結し、24,576人の里親が活動しています。

上田建設事務所管内では、32団体1,919人の御協力を得て、道路の美化活動等を実施しています。（共に平成31年1月現在）